

# あぐりdeなんたん

南丹農業改良普及センターだより

令和3年2月  
第23号

特集

## コロナ禍に負けない スマート農業.....P2

### ●新規就農者の紹介.....P4

### ●地域の活動.....P5

えびいも伝承塾／「祝」勉強会／丹波高原朝市

### ●普及センターの取組み.....P6

ジャンボタニシ対策／京都丹波有機農業サロン

### ■Topics.....P7

●表彰、退任・新任農業士の紹介

### ■お知らせ.....P8

●作業機を装着したトラクターの公道走行について

●令和3年度 京都丹波就農サポート講座 受講生募集

●New Face（新規採用職員紹介）

写真：防除作業の省力化に活かすドローンの操縦（P3）

# コロナ禍に負けないスマート農業

## (農)ほづ(亀岡市)におけるスマート農業の取組み

近年、農業者の高齢化や担い手不足が進む中、「農事組合法人ほづ」(以降、(農)ほづ)は、広範囲に分散する大小様々な農地を管理されています。このため、基幹作目である水稲の適期適正な管理作業が困難となり、いかに収量や品質を安定させるかが今後の課題となっています。

そこで(農)ほづでは、令和元年度から2年間、農林水産省の「スマート農業技術の開発・実証プロジェクト事業」を活用し、京都府農林水産技術センターを代表機関としたコンソーシアムに参画して、「水稲栽培におけるスマート農業技術・機械の一貫体系の導入による作業支援と省力・増収・高品質化の実証」に取り組んでいます。

今回、実証試験で導入された「ロボットトラクター」「直進キープ機能付き田植機」「ドローン」などの

スマート農機の効果について、概要を紹介します。

(1) ロボットトラクター(自動走行可能なトラクター)  
10a以上のほ場では、従来のトラクター(有人機)とロボットトラクター(無人機)の2台を同時に動かす「協調作業」により、ほ場の大きさや形状によって作業効率に差はあるものの、約20〜40%の時間短縮を図ることができました。

10a未満のほ場における「協調作業」では、無人機の作業が早く終わり、オペレーターが設定のために有人機から無人機へ移動して乗降する回数が増え、身体的負担が大きいのが分かりました。

(2) 直進キープ機能付き田植機  
直進キープ機能付き田植機の田植え作業では、従来の田植機と比較し、ほ場の大きさや形状によって作業時間は変わりますが、約20〜

30%の時間短縮を図ることができました。



(3) ドローン防除・施肥  
ほ場条件に関係なく農薬散布が行えることや、まとまったほ場であ

れば広範囲に防除できるため、動力噴霧機での作業などに比べ約40%の時間短縮を図ることができました。また、ほ場毎の農薬散布が可能のため、水稲の生育や病害虫発生などの状況に応じた適期作業を行うことができます。



その他、刈取時に籾水分やタンパク含量が把握できる食味・収量コンバイン等の検証も行われています。最終的な検証はこれからですが、スマート農業技術が今後の中山間地域の水田農業に有効な方策になることが期待されます。

## ドローンで農薬散布作業の効率化を実現

「とにかく防除作業が楽になった」と語るのは、昨夏、ドローンを導入した株式会社RYO(南丹市園部町)の西田良弘さんです。これまでは重い動力噴霧機を背負い、何日もかけて農薬を散布していましたが、暑い中、なかなか作業がはかどらず、防除の適期を逃すこともあったそうです。そんな中、思い切って昨年の7月に操縦技能の講習を受け、機体の購入に踏み切りました。

ドローンによる防除は、作業の効率化と作業時間の短縮につながりました。また、自社の水田だけでなく、周辺の農家からもドローンを使った防除の依頼が多く舞い込み、南丹市はもちろん亀岡市にも防除作業に出かけることも。

ほ場によっては獣害柵や電気柵、山際に覆い被さるような樹木や竹などが障害となり、ドローンの操作に細心の注意を払う場面も少なくなかったようですが、防除



作業は多くの人に喜んでもらったこと。「おかげで今年は斑点米カメムシの被害が少なかったよ」とうれしい声も届きました。水稲だけでなく豆類の防除の依頼もあり、今年は自社16haを含め、延べ約40haの作業を行いました。来年は防除面積がさらに増える見込みです。

## 京丹波町でラジコン草刈機導入

京丹波町は広くて勾配も急な場面のあるほ場が多く、また、農業者の高齢化や担い手不足も相まって、除草作業が大きな負担となっています。

除草作業の省力化にはラジコン草刈機の導入が有効ですが、一集落や法人では導入コストや維持管理経費をどうするか等が課題です。

このような状況の中、京丹波町では今年度、ラジコン草刈機が導入されました。導入に先だって、昨年3月に和知地区のほ場で、また10月には須知高校のほ場でデモ走行が行われ、参加した農業者や関係者が草刈機の性能や操作性等を確認しました。農業者からは、「操縦しやすく、往復刈りが可能で、旋回の必要がないの使いやすい」との声が聞かれました。

京丹波町に導入された草刈機は、今後、和知ふるさと振興センターで管理され、和知地区を中心に活用される予定です。



# 地域の活動

## えびいも伝承塾 ～亀岡市～

亀岡では、この2年間で新規えびいも生産者が5名増えました。そこで高い生産技術を維持していくため、先輩農家が講師となって「えびいも伝承塾」が開講されています。

春は「種芋の芽出しと育苗」、夏は「土寄せ」などの肥培管理、秋は「収穫・出荷」について、シーズンを通して勉強を続けています。

新規生産者は、「先輩方に実際のやり方を教えてもらえたので、初めてでもやっていける」との手応えを感じています。



## 「祝」勉強会 ～京丹波町～

京丹波町では、「京の米で京の酒を」を合い言葉に京都府育成酒造好適米「祝」の生産に初めて取り組むこととなりました。

8名の生産者が約4畝規模で栽培され、JA主催で栽培前や栽培期間中に2回の現地研修が開催されました。

普及センターは、生育状況と品種特性に応じた栽培管理や収穫調整方法について説明し、多発したトビイロウンカへの注意を呼び掛けました。

その結果、平均反収300kg、一等米比率86%となり、多くの生産者からは「収量は上がりにくいですが、販売面で安心して取り組めるので継続して作りたい」との前向きな意見が挙がりました。

普及センターは、今後もさらなる収量・品質の向上を目指し、研修会を通じてサポートを続けます。



## 初開催の「枝豆まつり」多くの来場者で賑わう ～丹波高原朝市～

新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて、主要イベントが軒並み中止となる中、JA京都丹波高原朝採り野菜部会は、10月17日、18日の両日、黒大豆枝豆の販売促進イベント「枝豆まつり」を開催されました。

来場者に検温を求め、3密を避けて順番に特設テントに誘導するなど感染予防対策を講じる中、180名もの来場がありました。

また、売上は、例年開催される「丹波公園まつり」（京都丹波ロードレース開催時（今回中止））を上回ったとのことでした。

今回のイベントは、特産の黒大豆枝豆を目玉商品に、売上向上や部会活動の活性化を目的に取り組まれたものです。普及センターは、黒大豆枝豆の出荷期間拡大と増産を目指した研修会や府の補助事業を活用して支援を行いました。部会では今回の好結果を受け、来年度も継続して開催したいと意気高くされています。



# 新規就農者の紹介



多くの野菜をつくっています

中川 喬之さん  
(亀岡市菅我部町)



サラリーマンをしていた中川さんは滋賀県から移り住み、亀岡の野菜農家で2年間の研修の後、令和元年5月に就農されました。

夏場は茄子、唐辛子、冬場は春菊に加え、品目拡大を狙うえびいもの世話など、手が回らないほど多忙な日々を送られています。

「農業の楽しさは自分で決めて自分でやること」とのこと。

ただ、一人では労働力的に限界があるので、「雇用を入れ、規模拡大ができないか」と計画されているところです。

出会いを大切に頑張っています

呉 尚樹さん  
(南丹市日吉町)



兵庫県出身の呉さんが就農されたきっかけは、インターネットで農作業ボランティアの募集を見つけたことだったそうです。

平成28年、農外からの新規就農者であった北井完司さんの下で農作業ボランティアを始められた呉さんは、2か月後には農業による新たな生活を考え始められたとのこと。そして北井さんと相談する中で、令和元年4月、ついに新規就農者として独立されました。

就農と同時にハウス6棟を自力で建設され、壬生菜や小松菜を中心とする周年栽培をスタート。さらに露地40坪に秋冬作の人参や大根など、品質にこだわった栽培をされています。

ハウス周りの排水溝を手掘りするなど、コツコツ作業される姿に地元のみなさんの期待も高まっています。

直売所に並ぶカラフルな野菜

山崎 将司さん  
(京丹波町蒲生)



昨年Uターンで就農された山崎さんは、十数年間グラフィックデザイナーとして勤務後、種苗会社に転職されたという経歴をお持ちです。

現在、生産物の大部分を道の駅「味夢の里」に出荷され、中心となる枝豆は継続的に出荷できるよう品種を選ばれています。

また、多くのカラフルで珍しい野菜を栽培され、野菜が映えるパッケージ、特徴や調理方法を記載したポップ、使い切れる内容量など、購入される方の気持ちに寄り添った工夫を凝らされています。

多品目で営農するコツは、「高品質を保ち出荷を切らさないこと」だそうです。

栽培当初、排水不良や土壌病害に悩まされたほ場には、土壌改良資材を投入し土づくりに励まれたとのこと。

きれいに生育した野菜からその思いが伝わってきます。

# 表彰

## 黄綬褒章

【春】

人見 英作さん  
(亀岡市)

【秋】

人見 保夫さん  
(南丹市)

## 京都府農林水産業 功労者表彰

梅原 眞さん  
(京丹波町)

上田 正さん  
(京丹波町)

## 京都府農林水産業 功労者表彰

(株)新田農園

(京丹波町)

清水 克次さん  
(亀岡市)

谷山 建夫さん  
(京丹波町)

馬路町農作業受託組合

(亀岡市)

## 京都府若手農林漁業者表彰

溝口 倫正さん  
(亀岡市)

村上 和也さん  
(京丹波町)

みなさん、誠におめでとうございます！

## 退任・新任農業士のみなさん (敬称略)

退任

指導農業士

奥村 幹夫  
(南丹市)

〃

辻 雅  
(京丹波町)

青年農業士

藤村 早苗  
(亀岡市)

〃

綿井 庸祐  
(南丹市)

新任

指導農業士

谷岡 英樹  
(京丹波町)

青年農業士

戸田 康裕  
(亀岡市)

〃

小島 敬久  
(亀岡市)

よろしくお願いします！

たいへんお世話になりました

## 普及センターの取組み

### ジャンボタニシ対応策を 呼び掛けています



近年亀岡市と南丹市では、ジャンボタニシの被害面積、被害程度が増し、対応策が求められています。  
ジャンボタニシは「タニシ」ではなく、「リンゴガイ」の仲間です。  
水中で活動するジャンボタニシの対策としては、田植え後の浅水管理で貝の動きを鈍らせて被害を回避する方法、石灰窒素や農薬で殺貝する方法、冬場のトラクター耕うんによる貝の破碎や水路の泥上げで越冬数を減らす方法などがあります。

ジャンボタニシは水田だけでなく、用水路にも生息しており、個人だけでなく、地域ぐるみでの対応が重要です。  
地域での勉強会実施の御要望があれば、普及センターにご相談ください。

### 有機農業で「経営継続」するために… 「有機農業サロン」を開催

普及センターでは、化学農業や化学肥料を使用せず環境負荷を低減した農業に取り組んでいる農業者や志向者を対象に、情報交換や交流を目的として、「京都丹波有機農業サロン」を開催しています。  
今回は11月27日、新型コロナウイルス感染症防止対策を講じた上で、「生業（なりわい）」としての有機農業を考える」をテーマに開催しました。  
南丹地域で先進的な経営をされている3名の方から、「販路の開拓」、「価格の設定」、「顧客との繋がりづくり」等について報告していただき、参加者による意見交換が行われました。  
栽培管理に大変な手間やコストがかかる有機農業について、「きちんとした原価計算」、「利益が取れる品目」、「相応な付加価値」などについて活発に意見



交換され、自らの経営を安定して続けていくための問題意識を高める場となりました。

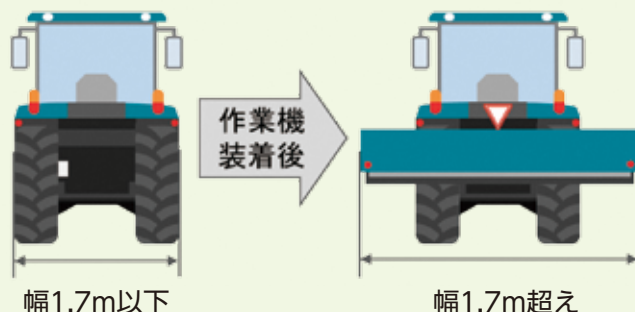
# 作業機を装着したトラクターの公道走行について

条件を満たした場合、ロータリー・トレーラー等の作業機を装着・けん引した状態のトラクターが公道走行できるようになりました。

## <条件のチェックポイント>

- ☑ 灯火器類の確認
- ☑ 作業機の幅（1.7m以下）の確認
- ☑ 運行速度の確認
- ☑ 運転免許の確認

例えば、ロータリー等の直装式作業機を装着して灯火器類が見えなくなる場合、所定の位置に灯火器を増設する必要があります。



大型特殊免許が必要

詳しくは、農林水産省ホームページをご確認ください。

[https://www.maff.go.jp/j/seisan/sien/sizai/s\\_kikaika/kodosoko.html](https://www.maff.go.jp/j/seisan/sien/sizai/s_kikaika/kodosoko.html)

## 令和3年度 京都丹波就農サポート講座

受講生  
募集の  
ご案内

- ①対象 ①京都丹波地域の農業の担い手として基礎技術習得が必要な方  
②農福連携に取り組む事業所で農業技術の指導に携わる職員 計20名程度
- ②日時 令和3年5月～11月(予定) 平日 13時30分～17時
- ③会場 京都府園部総合庁舎（南丹市園部町小山東町藤ノ木21）  
協力機関の施設、現地ほ場 他
- ④講座内容 土壌肥料や病害虫防除、野菜や豆類の栽培技術等 計6回程度予定
- ⑤受講料 無料
- ⑥申込方法 申込書に記入の上、持参・郵送・FAX・電子メールで申込み  
書類選考の上、令和3年4月末日までに受講生を決定  
募集要領・申込書の請求は普及センターまで  
（普及センターのホームページにも掲載予定）
- ⑦締切 令和3年4月20日（火）必着  
詳細は下記電話番号までお問い合わせください。



編集  
発行

京都府南丹広域振興局  
農林商工部  
南丹農業改良普及センター

京都府南丹市園部町小山東町藤ノ木21  
TEL.0771-62-0665 FAX.0771-63-1864

ホームページ  
<http://www.pref.kyoto.jp/nantan/no-nokai/>

E-mail  
nanshin-no-nantan-nokai@pref.kyoto.lg.jp

【再生紙を使用しています】

New  
Face



新規採用職員 池田 郁女あやめ技師  
令和2年4月、農業技師として採用されました。出身の長崎県と比べて京都の夏は暑く冬は寒い気候にとまどいながらも、日々現場で勉強しています。和知地区と豆類を担当しており、初めてのことばかりですが、早く一人前の普及員になれるよう頑張ります！